

第42号

2013.5

本郷学園同窓会誌

銀友



—— 総会のお知らせ ——

日時 2013年6月15日(土) 15:00より
場所 本郷学園1号館2階会議室

<http://本郷学園同窓会.jp> & <http://www.hongo-gd.net>

学園より教育振興資金へのご寄付のお願い

本郷学園同窓会の皆様には、日頃学園をご支援いただき心から感謝いたします。お蔭様で中学、高校とも、外部の皆様方から教育内容の充実した学校として年々、より高い評価を戴いております。

今後とも、建学以来の教育理念に則って社会有為の人材を育てるべく、学園あげて取り組む所存でございますので、ご支援の程、宜しく願い申し上げます。

学校の教育内容充実、施設整備などの用途を目的に寄付金を在校生の保護者、卒業生の皆様ほか個人、法人を問わず幅広く受付しておりますので、ご案内申し上げます。学校法人への寄付金は非課税扱いになっております。趣旨にご賛同いただきましたうえでご協力賜りますよう宜しく願い申し上げます。

(なお、本学園では従来から入学に際し保護者の皆様へのご寄付のお願いは特に致しておりません。)

●お申し込み方法

①学園事務室に寄付の申込書をご請求ください。

学校法人 本郷学園

〒170-0003 豊島区駒込4-11-1

電話 03-3917-1456

ファックス 03-3917-0007 担当 伊藤(事務長)

②申込書に所定事項をご記入の上、事務所へご提出ください。

③指定の銀行振込口座にご入金ください。

④入金確認後、「振込金受領書」並びに

「特定公益増進法人であることの証明書」(写し)を郵送いたします。

●税法上の寄付金控除

私立学校への寄付金は特定公益増進法人に対する寄付金として確定申告により所得税から控除されます。

なお、寄付金控除額は控除対象団体等への年間支払い寄付金の総額(年間総所得の40%以内)から2千円を差し引いた額になります。

「銀友」第42号
目次

Index

p2 本郷学園同窓会会長あいさつ

南谷 修 高校8回生（1956年〓昭和31年〓卒業）

p3 学校法人 本郷学園理事長ごあいさつ

松平 頼武

p4 投稿

●千葉古墳文化と国造

加藤 浩正

中学18回生（1945年〓昭和20年〓卒業）

●「続々・屋久島だより」

福原 信夫

高校7回生（1955年〓昭和30年〓卒業）

●頭と身体を使い、マスターズ陸上に参加して

稲葉 研治

高校8回生（1956年〓昭和31年〓卒業）

●私の生き方

鈴木 教司

高校12回生（1960年〓昭和35年〓卒業）

●司法試験の先に目指すもの

鬼澤 秀昌

高校58回生（2006年〓平成18年〓卒業）

p17 同期の輪

「成人の集い」ほか

p23 トピックス

●「本郷医師の会」設立のお知らせ

杉下 和行 高校48回生（1996年〓平成8年〓卒業）

●本郷にも応援歌があった！

p26 OB会通信

●スキー部創立40周年記念パーティー

加藤 哲史 高校57回生（2005年〓平成17年〓卒業）

p28

2013年度事業計画・予算案

p30

2012年度事業・決算報告

p32

2012年度表彰記録

p33

2012年度定期総会報告

山際 幸雄 高校18回生（1966年〓昭和41年〓卒業）

p34

2012年度本郷祭報告

赤井 健郎 高校22回生（1970年〓昭和45年〓卒業）

p36

本郷学園同窓会役員（案）

p37 学園便り

2013年大学入学試験合格実績

p38

本郷学園同窓会会則

p40

本郷学園同窓会会費納入者一覧

p45

計報・編集後記



本郷学園同窓会
会長

南谷 修

高校8回生

1956年(昭和31年)卒業

同窓の皆様、日頃より会の運営にご理解、ご協力を頂いており、誠にありがとうございます。同窓会の発足は1928年(昭和3年)3月であり、今年で86周年を迎えることとなりました。

本郷学園は昨年90周年を迎え、100周年に向かう新たな歩を踏み出しました。

学園は理事長をはじめ、運営陣の努力のもとでグラウンドが人工芝へと替わり、35号館が新4号館へと建替えられ、そして新しい2号館(旧デザイン科棟)が来春完成することになります。教育体制も充実し、校長をはじめ教職員の皆様の努力で本年の進学も良い成績であり、実力校としての本郷高等学校を確立させております。

同窓会は常に同窓会員の親睦を深めると共に学園の発展のために何を成すべきか、何をすれば良いかを基準として活動しております。

その例として、生徒の優秀な活動には運動部のみならず文科関係も問わず団体個人に参加した一人ひとりに表彰を行うようにしております。更に卒業2年目の成人を迎えられる人達に本郷学園で共に学ばれた絆を持っていただけであるとうと「成人の集い」を設け、本年度6回目となります。それらに協力をさせていただ

ております。又、卒業生の還暦を迎える方々に「還暦の会」、「同期会」などへの呼びかけと協力もしております。

同窓の皆様は、各界、各地域で多方面に渡り、活躍をされていることと存じますが、今の社会は、多様な判断基準、価値観を生みだしており、不安定で不透明な状況であります。経済も少し明るい気運が芽ばえているものの、今の経済、社会が国内だけで成り立つものでないことはよく知られております。グローバルな視点で将来に通じるものでなければなりません。ともすれば瞬間風速的な見方に陥ってしまうことが多し現代社会になっていくようです。

各々がそれぞれの立場でそれぞれの判断基準をしっかりと持って進んでいかなければならない時代になっているのではないのでしょうか。

今こそ、本郷学園で育った絆のもとで、人の繋がりが大きな財産になってほしいと願っております。同窓の皆様、是非とも同窓会活動を深く理解していただき、同窓会への参加をお願い致します。

同窓の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼武

同窓会の皆様には、日頃から本学園の運営に、また後輩の生徒達にも直接ご指導、ご支援を頂いており、誠に有り難うございます。

本校は、昨年創立90周年を迎えることが出来ました。これも偏に本校を卒業された皆様、先輩方のお陰と感謝に堪えません。

この節目を生徒達も祝い、私共はこれを機に次の100周年を目指して、学校の体制強化、施設設備の充実を図って参ります。

体制強化では、平成25年度より中学、高校ともに完全実施となりました新教育課程を確実に定着させるべく取り組んでおります。

施設設備では、昨年4号館の改築を終え、現在グラウンド正面の2号館(旧デザイン科棟)の建て替えを行っております。この建物は5階建てで、地階に講堂兼体育館、2階に図書室、上の階に教室を備えた近代的なもので、平成26年1月の完成予定であります。ぜひ皆様方も見学にお越し下さい。

生徒の指導面では、充実した教職員の体制で、進学も、諸処の学業面、スポーツ方面での活動にも大きな成果を上げてお

り、今後も大いに期待しているところであります。

本年の大学への進学も例年通りの良い成績で、東大、東工大、一橋をはじめとした国公立大学、早大、慶大などの私立大学へ多数の進学を果たすことが出来ました。将来、社会に出て立派に活躍してくれる人材と自信を持っております。

平成25年度の中学、高校の入試は2月に順調に終わり、応募者も多数集まりました。中学生は246名、高校生は89名の外部中学からの入学生を合わせ328名で新学期をスタートいたします。

学校は新入生が入り、新たな活気に溢れます。教職員共々、新たな気持ちで皆様の後輩達の訓育に務めてまいります。

同窓会の皆様におかれましては、本年も本校のためになにとぞよろしくご指導、ご支援を頂ければ誠に幸いです。

同窓会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、そしてご活躍を祈念申し上げます。

千葉古墳文化と国造

加藤 浩正

中学18回生

1945年(昭和20年)卒業

日本列島に沿い流れる黒潮海流のり、西南の日本の人々が、その文化と共に可成り古くから東国に流れ込んだことは、古墳の発掘状況及びその状態から十分考え得られる。

それは、有力古墳群の多くは、比較的大きな河川の流域等に認められ、古くから古文獻に記された国造(くにのみやつこ)の本貫地と結びつけて考えられ、房総半島における古代豪族の消長とヤマト権限との関係等を解明する有力な資料として重要視されてきた。

太平洋岸九十九里浜に面する山武地区は自然環境にめぐまれ、木戸川・作田川・栗山川とその支流・高谷川の流域を中心として約50の古墳群、その中に950基の古墳が

確認され、中には100m級の前方後円墳を盟主とする有力古墳群もいくつか含まれている。

この地域は「国造本紀」・武射国造の勢力圏と推定され、主要古墳群としては、横芝町の芝山古墳郡、成東町の板附古墳群、松尾町の大堤古墳群・蕪木古墳群・大塚古墳群、山武町の麻生新田古墳群・胡摩手台古墳群、芝山町大里田辺古墳群、それに地域は異なるが多古町の柏熊古墳群などがあげられる。大型前方後円墳の可能性が高い。

この地域の有力古墳群は、作田川・木戸川流域に集中し、作田川上流・成東川左岸には2基の前方後円墳、西の台古墳(90m)、不動塚古墳(63m)と一辺60mの巨大方

墳からなる板附古墳群がある。同じく作田川上流・境川左岸には胡摩手台古墳(前方後円墳85m)を中心に胡摩手台古墳群や経僧塚古墳・カプト塚古墳等の大型円墳からなる麻生新田古墳群がある。木戸川流域には下流左岸に大堤古墳群と蕪木古墳群、中流右岸に直径60m以上大円墳の姫塚古墳所在・大塚古墳群、左岸に殿塚古墳(88m)・姫塚古墳(59m)の2基の前方後円墳を中心に芝山(中台)古墳群と小池大塚古墳(前方後円墳72m)の所在する舟塚古墳群の存在が確認される。

右段階の古墳は栗山川流域では、上流部では柏熊古墳群・しゃくし塚古墳(80m前方後円墳)で、前方部の低平な墳形は4世紀代に遡る可能性の高い古墳(房総半島北東部香取・海匝・山武)で、この地域の古墳文化成立期の様相を知り得る古墳といえる。

房総半島の国造の分布

阿波(あわ)国造

「国造本紀」に成務天皇の世、大伴直大滝を国造に定む、と。平久里(へぐり)川流域館山平野を支配し、阿波国北半がのちに平郡、南半が安房国。

長狭国造

『古事記』の神武天皇条に「神八井耳命は長狭国造等の祖」と。加茂川・丸山川流域を支配し、のちに加茂川流域は長狭郡、丸山川流域は朝夷郡となる。丸山川上流は丸子部をひきいた丸氏の根拠地。

須惠国造

成務天皇の世、大布日意弥命を国造と定めた。小糸川流域を支配、のちに周准(すえ)となった地方である。また湊川流域の天羽郡も支配下にあつたらしい。富津市の飯野・内裏塚・九条塚(前方後円)を中心とする古墳群は国造一族の墓といわれる。

馬来田国造

成務天皇の世に深河意弥命を国造に定めた。須惠国造とは兄弟で同時に国造となった。

小櫃川流域を支配し、これはのちに望陀(もうだ)、畔蒜(はんさん)二郡になった地方。木更津東部と富来田町付近に前方後円墳が密集している。

上海国造

成務天皇の世に忍立化多比命を国造に定めた。養老川以南の市原市域を支配し、二子塚古墳は国造墓と伝えられ、これをとりにまく姉ヶ崎群集墳は国造一族の墓との伝承がある。(式内社島穴姉ヶ崎二社あり)。

菊間国造

成務天皇の世、大鹿国直を国造と定める。養老川以北の市原市域を支配。

伊基国造

成務天皇の世に伊己侶止直を国造に定めた。夷隅川・宮川流域を支

配。のちに夷隅川流域は夷隅郡、二宮川流域は埴生、長柄二郡になる。茂原市付近は藻の原、僅かに西部丘陵南面に横穴古墳が点在する。

武社国造

成務天皇の世、彦忍人命を国造に定めた。和邇氏一族の牟邪(むさ)臣が活躍。木戸川・栗山川をむすぶ一帯を支配し、のち、武射郡となり、950基の山武郡下の古墳中8割近くが郡東東北部の地上に集中。

下上海国造

応神天皇の世、久都伎直を国造に定めた。東下総の海上・匝瑳・香取三郡と常陸鹿島郡の南部を包括する地方を管轄した。古墳文化の発達は小見川・佐原・香取付近は著しい。

印波国造

応神天皇の世に伊都許利命を国造に定めた。印旛沼周辺を支配する。勢力範囲は不明。

船塚古墳（成田市船方）は国造の墓。沼の東方台地上に竜角寺古墳群がある。

千葉国造

『日本後紀』延暦24年8月条に、大私部直善人が千葉国造で、外従5位下を授けられたが、建置年代・支配区域不明。

尚、伊甚国は南北領域の境目に位置している。五世紀後半から六世紀前半にかけて、大和朝廷の勢力が東国にのびると、地方豪族との間に対立を生じ、朝廷に対する豪族の反抗が大きいが、伊甚の珠の物語は反体制的であった。これは伊甚国造の敗北を意味する。

（参考…千葉県の歴史）

続々・屋久島だより

今回は映画の中の（屋久島）について見てみよう。年配の人にとって忘れ難い映画は、なんといっても林芙美子原作、成瀬巳喜男監督、森雅之、高峰秀子主演の「浮雲」であろう。昭和30年のキネマ旬報第1位に輝き、監督賞、主演男優、女優賞を獲得、成瀬や高峰の生涯の代表作である。

映画はベトナム（当時は仏印即ちフランス領インドシナ）の戦場で技官とタイピストという男女の愛の始まりから、敗戦での帰国。そこからの抜き差しならぬお互いの行き違いの愛の遍歴。情念の絡み合い。紆余曲折の末のどうにもならない人生の決着を、南の孤島（屋久島）の営林署の技官という仏印時代と



福原 信夫

鹿児島県ユースホテル
協会理事長

屋久島ユースホテル
ベアレント

高校7年生

1955年（昭和30年）卒業

同じ職を得て、女もその男について行く。宿舎のある小杉谷（当時は営林署の前線基地で小中学校まであって山中での唯一の村だった。昭和42年に事業は廃止され翌年廃村となった。）は山奥にあり女はそこで死を迎える。

ではなぜ彼等は屋久島を行き先を選んだのだろうか。それは愛の出発点でもあった仏印に日本の中で距離的に最も近く、仏印のジャングルの環境に最も似ていると思ったからであろう。原作者も執筆のため島に来て雨の中のぬかるみを見て、まるで仏印と同じだと後に書いている。

当時屋久島は日本の最南端であった。屋久島のすぐ南にある吐

か喇(トカラ)列島より南は、奄美も沖縄もすべて占領軍の管轄下にあった。トカラは昭和27年2月に、奄美は28年12月に日本に返還されている。しかし原作者がこの物語を書いた昭和24年、25年はそうではなかった。従って主人公達とつての屋久島は一番心情的に印に、過去の充実した愛と生活を営んだ地への望郷の念を手繰り寄せるに適した地と思いい、絶望の中にかすかな希望を見いださせてくれると信じた所であったに違いない。作者も主人公達を屋久島即ち疑似仏印へ持つて行きたかったのである。

ちなみにトカラは今(十島村)としまむら) (口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、悪島、小宝島、宝島の有人七島と無人五島からなる)と称しているが、昔は現在屋久島の北にある三つの島(黒島、硫黄島、竹島)と一緒に(十島村) (じゅつ

とうそん)と呼んでいた。そして同じ村なのに日本の(十島村) (じゅつとうそん)と、占領下の奄美群島政府下の(十島村) (じゅつとうそん)の二つに分断されたという悲劇の歴史を持っている。返還後二つの(じゅつとうそん)は(十島村) (としまむら)と(三島村) (みしまむら)に分村されて今に至っている。

この分村の悲劇と「浮雲」の悲劇は私にはどうも二重写しに見えてならない。ちなみに林芙美子が執筆した旅館は今でも(安房)の川の畔に「浮雲の宿屋久島山荘」として営業している。そして余談だが「島では月に三十五日雨が降る」という言葉は「浮雲」で有名になるのだが、実際そんな事はなく、春から梅雨頃迄はそんな雰囲気の日があるものの、秋から冬への乾期には乾燥注意報が連日である。

又映画の中で主人公の二人は

鹿児島で屋久島行きの船を待つが船は出ず、島までは17時間もかかると言うシーンがあったが、やはり当時の屋久島は孤島であったのだ。しかし今は高速船の直行便なら1時間40分、大型のフェリーでも4時間、飛行機なら鹿児島空港から35分、そして福岡や伊丹からはそれぞれ1日1便だが直行便がでている。羽田からでも鹿児島で乗り継いで3時間で着く。

次に採り上げる映画は世界自然遺産登録後に出来た宮崎駿監督のアニメ「もののけ姫」だ。この作品は大ヒットし当時興行収入歴代1位を記録した。屋久島への影響もおおきかった。次作の同じ宮崎監督の「千と千尋の神隠し」に記録を破られるのだが、この映画のタイトルも実は「もののけ姫」撮影時監督始め大勢の美術スタッフが来島し、その時島で最も美しい千尋の滝(せんびろのたき) (写真2)を見てヒン

トを得たふしがある。(ただし読み方は変えて。)「もののけ姫」での宮崎監督の現代の文明社会に対する切込みの深さは、尋常ではない。文明と破壊、縄文的なものど弥生的なものとの葛藤、日本の古くから存在する神々の示す啓示など、折から世界的に環境問題に皆が敏感になってきているだけに、まさに時機を得たものともいえる。

あの映画の中に出て来るたたら場は出雲がモデルとのことだが、実は私も奥出雲の現存する高殿式のたたら場を見に行ったことがある。すごいと思った。明治に西洋式の官営八幡製鉄所ができる迄は、日本の製鉄はすべて砂鉄からたたらで造る鉄塊(けら)が原料となっていた。ここから更に純度を高めて造る鋼は世界でも有数の高品質の鉄だった。従って山越えして吉備(備前、備中、備後)に渡って造られた刀や農具は世界有数の品質

だった。しかしその鑄造の過程で要する木材の量たるや、はんばなものではなかった。たたら場での数回の操業で一山が消えたともいわれている。それが中国地方に原生林が殆ど残っていない理由だ。文明と破壊は表裏なのだ。宮崎監督の問題提起は將にそこにある。

さいわい屋久島にはたたらもなかったし、江戸時代に島津が奥山の杉の伐採を始めるまでは、島の人達は木を伐る為に奥山に入ることではなかった。不伐の思想は守られてきた。木を伐ればその後自然が人間に逆襲してくることを、昔の島の人には知っていたのだろう。島津藩も屋久杉の管理は慎重に執り行っていた。これこそが屋久島が日本で最初の世界自然遺産の地として登録された原点である。

この映画の影響で、たくさんのお客が訪れてくれるようになりメジャーにもなった。そしてヤクスギ

ランドと白谷雲水峽の人氣が逆転してしまった。白谷雲水峽(写真1)が映画の中で苔むす森のモデルになったからである。なんと今では白谷雲水峽の奥の苔の森は(もののけの森)と呼ばれている。

屋久島の歴史には様々な変遷があったが、江戸時代には完全な島津の支配地となり、明治の新政府と島民との所有権の争いに、島民が敗訴した後、今では島の面積の90%が国有地となっている。

そして今の大きな問題は、増加した観光客によって自然の破壊を進めてしまうのではないかという危惧である。自然と環境が対立軸にあるのではなく、どう共生していけばいいのか、ということである。これはなにも屋久島だけの問題ではあるまい。日本のすべてが、地球全体が人類全体が真剣に考え取り組んで行かなければならない事である。

さて最後に山田洋次監督の学
校シリーズの4作目「十五才」につ
いて、少しふれてみよう。この映画
は、学校に行きたくない、何をして
いいのかわからないという少年が、
家を飛び出し、ヒッチハイクをしな
がら、屋久島の（縄文杉＝写真3）
を目指してやって来る。そこで偶然
優しい登山家のお姉さんに出会い
念願の縄文杉登山の目的を果た
す。その後お姉さんとは別れ、一人
で下山するが少年は途中で道に迷
う。しかしやつと薄暮の麓にたどり
着く。そこで親切な老人に出会い
家に泊めてもらう。そして翌朝お
礼をして老人の家を出ようという
時、老人は病で倒れる。一人で生活
をしている老人を少年はそこで看
病などしながら、いろいろ世間のこ
とを学びながら成長してゆく。そ
して自分に目覚めた少年は無事家
に帰り登校する。

屋久島の自然や島自身にそう

写真1



ゆう癒しの効果があるということ
を、山田監督は好意的に描いてく
れた、島にとつて有難い作品であ
る。その後この映画の影響があつた
のかどうかは定かではないが、わが
ユースのあるこの平内の地に通信

制の（屋久島おおぞら高校）が開
校し、今では大勢の登校拒否児や
問題児たちがスクーリングにやつて
くる。そしていまやこの高校は通信
制では卒業生の数が日本一になつた
そうである。



写真3



写真2

頭と身体を使い マスターズ陸上に参加して



稲葉 研治

高校8回生

1956年(昭和31年)卒業

大学卒業後50年スポーツとは全く無縁でした。2年程前のことですが、同期でバスケット部で活躍された角能君が東京都のバードゴルフ大会で優勝されたことを知り、大変驚き又感動を受けました。同期の人達もゴルフ、水泳、ランニング等、真剣に取り組んでいる方も多くいることを知り、又私の孫娘(中学1年)が部活で陸上の中・長距離を始めたこともマスターズ陸上を考えるきっかけとなりました。

まず掛り付けの医師にアドバイスをもらいました。楽しくゆつくり練習して下さいとのことでした。競技に必要なもの一式を揃え、4月から荒川の河川敷で週2回ジョギングからスタートしました。私の種目は、槍投げです。7月に初の大会がありますので、槍投げの助走、ステップの練習を行いました。筋力が落ちてきている為思うようにできません。出来なくて当然だと思いましたが、大会の3週間前左足に肉離れを発症してしまい、大会まで毎日電気治療を行い何とか大会に参加することが出来ました。当日に痛みが出ないようにテーピングしてもらい競技を行いました。が、思うような投てきは出来ませんでした。

一 平成24年7月22日
関東マスターズ大会 2位
神奈川県相模原麻溝公園競技場
18 都道府県725名参加
二 平成24年8月5日
東日本マスターズ大会 1位
国立競技場
32 都道府県635名参加
三 平成24年10月14日
東京マスターズ大会 3位
国立競技場
37 都道府県726名参加
いずれも75才〜79才の部です。
東京マスターズの1000mでは、102才の宮崎秀士さん(京都)が31秒73で見事優勝されました。又槍投げでも95才の下田吉人さん(東京)が5.04mで優勝しました。感動しました。3大会に参加しましたが、昔の友人に会うことは残念ながらありませんでした。
本年1月より江戸川区の総合体育館で筋力とストレッチトレーニング

を始めました。週1,2回程度です。私の高校時代の成績です。

高1 東京都大会 国立競技場

槍投 5位

高2 東京都大会 国立競技場

槍投 1位

高3 東京都大会 武蔵野競技場

槍投 1位

円盤投 5位

高3 第10回国体出場

神奈川三ツ沢競技場

インターハイは3回出場。高2より南関東予選会が始まりました。高3のインターハイは山形県酒田で行われ、槍投決勝は7位でした。私のベスト記録は51.88mです。

大学は神奈川大学に進学しました。高4回生に箱根駅伝でも活躍された八嶋先輩の勧めもあり神大に入学しました。本郷陸上部より4名が入学しました。(登丸、川西、根本、稲葉)1959年(昭和34年)4年生の時日本選手権に出場しまし

た。8月上旬場所は国立競技場で十種目競技での出場です。結果は4位でした。十種を始めたのには理由があります。1年生の夏腰を痛め槍投を断念しました。3年の秋までコルセットを付けランニング中心にやっています。それでも仲間と走れることが楽しく毎日常磐線金町駅より横浜駅經由東横線白楽駅まで2時間かけ大学に行っていました。

私は卒業後陸上をやめました。が、根本君はSB食品陸上部で短距離選手として100mを10秒台で走るすばらしい選手でした。

その年、日本陸連より種目別日本ランキング10傑の9位にランキングされ記念バッヂをいただきました。今でも私の宝物です。

皆様におかれましても健康が第一ですので、無理のないマスターズ陸上の参加をお勧め致します。何か相談ごとがございましたらお電話下さい。

03-3653-9039

私は数年前まで階段、歩道橋を休み休み登っていました。今はあまり気にならなくなりました。大会の結果はすべて医師にも報告し色々アドバイスももらっています。競技を続けることで免疫力もアップし体力の改善にも役立つと思います。医師より、又メダルを見せて下さいとの言葉を励みに本年一年頑張ります。



大学時代



高校時代

私の生き方

(バンドマスターとダンスの指導員)



鈴木 教司

高校12年生

1960年(昭和35年)卒業

昨年の本郷祭に行き、その後、同窓会の懇親会に参加しました。会場で同期の理事であります市倉君に銀友の投稿を依頼され受けることにしました。

学生時代は休みの期間にアルバイトで資金を稼ぎ、九州、北海道を一周する学割周遊券で都合のついた年の夏休みに友達とくまなく周り、さらに高校時代は神田須田町に住んでいたのが、神田明神の氏子のため神輿をかつき、声からしたものです。また独習で修得したギターと歌で大学時代はウエスタンロック中心のバンドに入り、地方と都内でメインボーカルとして4年間歌っていました。

1940年に卒業し、当時、池田

首相はこれからは開放経済体制の時代になり、国際競争力の強い企業が生き残ると言われていたので、国内シェア2位のミノルタカメラに入社いたしました。

入社後は営業希望が叶えられ、銀座の東京営業所に配属され、六つの特約店を回り、都内の担当エリアでルートセールスをしておりました。景気が下降線になり、売上も伸びなくなつた時に、他の業界でもメーカーの流通革命が起こり、自分の子は自分で育てるとの精神のもとに特約店に頼らず、ミノルタカメラ販売株式会社を設立し、カメラ店に直接販売するようになりました。

私も販売会社に出向し、銀座四丁目にある販売会社の本社勤務を

はじめ地方営業所二ヶ所の所長をしたり、またメーカーに戻ったりしました。そうした中で、今思うと、プロダクトマネージャーに推薦され、中級機種カメラの担当になり、開発から販売まで全ての権限を任せられた時が最も充実していました。中級機のシェアが5パーセントだったのを15パーセントに伸ばし、テレビで、オートフォーカスの『押すだけ』カメラというコマーションを流して社長表彰を貰いました。私のサラリーマン人生で一番やり甲斐のある素晴らしい時代でした。ただ、あまりに権限が集中したため、各部の存在価値が無くなりつつあり、5年程度で解体されました。

サラリーマン時代は歌とギターは封印し、60歳定年でスパッと退職して第二の人生を楽しむため、送別会を銀座のホテルでワンマンライブを3時間ほどやり、久しぶりに思いきりギターで歌いまくりました。急に歌った

ので声が出なくなり、ボイスレッスンに行き声が戻ったので、『タカシ&その仲間』というバンドを創り、千葉市の祭りや稲毛の『花の美術館』でコンサートを開いたりして楽しみました。

スポーツは家内とテニスクラブに入り、夫婦でテニスをしている四家族と清里にシーズンごとに合宿に行きました。62歳後半からソシアルダンスを近所の方に強引に誘われ、団地内の集会所兼ホールがレッスン会場のダンスサークルに入り、月4回練習するようになりました。

テニスはハードになり、65歳からは、ボケ防止には音楽を聴きながら身体を使いリードして頭を使う運動が一番良い、というコラムが新聞に掲載されたのをきっかけに、ダンス



の方にシフトしていき、日本ダンススポーツ連盟JDSFに加入して、技術認定資格を6級から挑戦しました。一昨年2月に指導員の資格を修得して、家内にもダンスのサークルに入会させ、JDSFのダンス競技会に参加するようになり、一応、競技選手アスリートと呼ばれるようになりました。競技選手としては遅いスタートではありますが、競技会の試合には、プロの現役A級選手に家内と週一回個人レッスンを受講して、臨んでおります。

ダンスの良いところは、スタンダード音楽は心を落ち着かせ、ラテンは思わず身体を動かしたくなることです。特に男性は音楽を聞きながら次のステップを考え女性をリードしていくの



で、常に頭を使いながら身体を使いパートナーを音楽にあったりリズムでリードするため、週4日のレッスンをプラス月平均2回のパーティーに行っています。

最近医者に行く时必须ず、運動していかずかと聞かれます。我々くらいになると身体を動かすことが健康に一番良いと分かっているも継続していくことは難しい。ダンスのサークルでは80代半ばの方が発表会に出てフォーメーションに出場しています。

我々の年代は健康とボケ防止のためには、ダンスが一番良いと思います。皆様、今からでも遅くありません。近所の公民館に行きダンスサークルの初級から入り健康維持に努めてください。(月会費は4回で平均¥2,000〜¥3,000です)

私は今後もボケ防止と健康のために出来るだけサークルや競技会を続けて人生を楽しんでいきたいと思っています

司法試験の先に

目指すもの



鬼澤 秀昌

Teach For Japan 職員
高校58回生

2006年(平成18年)卒業

1、初めに

初めまして。2006年本郷高校卒の鬼澤と申します。2006年に本郷高校を卒業して以来、早7年が経ちました。卒業後、東京大学、同大学院で法律を学び、昨年何とか司法試験に合格することが出来ました。本郷高校の在学時から、将来は司法試験に合格し法曹になりたいと思っていたので、ようやく長年の夢が叶い、とにかく嬉しい限りです。

しかし、実は、今は司法試験合格の後に行われる司法修習(1年間の研修)及び法律事務所への入所を1年間延ばし「Teach For Japan」と教育系のNPOで常勤職員をさせていただいています。というのも、目標は同じ「司法試験合格」であっても、

その先に目指すものはかなり変わったのです。

2、何を目指すのか

本郷に在学していたときは、部活と勉強が中心の生活でした。部活をやっていた時期は、普段からしっかりと復習するのは難しいので、直前の1〜2週間できかに効率よく勉強するかを毎回試していました。その結果、効率よく知識を身につける技術が身についたように思います。部活も卓球自体が楽しいのももちろん、友人たちにも恵まれ、非常に楽しく部活自体が良い息抜きになりました。そのことから、将来は、裁判官になりたいと思っています。ことから、高2後半からの受験期からは、司法試験の合格率が一番高い大学に入ることを目指していました。

しかし、大学に入って、国際的であることに憧れを持ち韓国や中国の学生と交流したり、法律を勉強したりしている中で、裁判官より弁護士の方が自分に合っているのではないかと思うようになりました。また、もうひとつ重要なことに気がつきました。それは「国際的」や「法律」というのは、あくまで「ツールに過ぎない」ということです。今までは、「法律を専門にした」、「国際的に活躍したい」と思っていたものの、では結局「何で」国際的に活躍するのか、弁護士として「何を」目指すのかという視点が欠けていたことに何となく気がつきました。

改めて自分の目指すものを考えた結果出てきたのが、「ビジネス法務を通じて、志を持って多くの人々の喜びや安心を生み出そうとしている人々を支援すること」でした。

3、自分がやりたいこと

①(ビジネス法務)

大学に入学した当初はビジネスに

は関心がありませんでしたが、ビジネスコンテントを運営するサークルの活動を通じ、考えが変わりました。ビジネスにおける思考が面白いと思っただけでなく、様々なビジネス関係の本や記事を読んだりしているうちに、実はビジネスというのも、「満足の対価」として金銭を得ているのだということに気がつきました。今有名な大企業も、大きな志に支えられています。ビジネスはより多くの人々の喜びや安心等の満足を生み出すのに貢献できる点に大きな魅力を感じました。

そして、自分は「社会のルール」としての法律にも興味がありましたし、色々な会社を支援したいと思っていたので、ビジネス法務の弁護士を目指すようになりました。

4、自分のやりたいこと

②(NPO等の支援)

しかし、ビジネス法務に携わる先生の話聞く中で、ビジネス法務に携わる弁護士は、大企業などの一部の

人々のみを対象にしているのではないかと感じ、もう少し色々な人々に貢献できないかと考えるようになりました。そう考えていたときに出会ったのが、「Table For Two」の小暮真久氏の『「20円」で世界をつなぐ仕事ー想いと頭脳で稼ぐ社会起業実践ガイド』でした。

非常にスマートに多くの人々の喜びに貢献出来るその仕組みに驚き、ビジネスを通じて社会の課題の解決の実現を目指す、「ソーシャルベンチャー」に興味を持ちました。そして、とにかく現場を知りたいと思い、SVP東京というソーシャルベンチャーを支援する会社でインターンをさせていただきました。何より驚いたのは、関わっている人々がみな情熱や志を持ち、とても楽しそうに活動している点です。

そして、SVP東京のイベントを通じて今職員となっているTeach For Japanに出会い、そのモデルやスタッフ

の熱意に感銘を受けました。スタッフとして関わるうちに、子どもたちや、子どものために本当真剣な先生たち、そしてそれを支える魅力的なスタッフにどんどん惹かれ、彼らを支えることが自分の喜びとなっていました。

また、これをきっかけに韓国やタイ、アメリカ等海外のソーシャルベンチャーも積極的に見に行くようになりました。これらの活動を通じて、自分の目指すものが徐々に固まってきました。

5、弁護士になる前に

NPOで1年間働くという決断
法科大学院を3月に卒業後、司法試験を5月に受け、結果発表は9月にあります。NPOであつても人を雇い、企業や自治体と契約し、知的財産権を持っていたり利用したりする以上、ビジネス法務の知識が必要でした。そこで、9月の合格発表までの間はTeach For Japanの法務面での

サポートをしていきました。

その活動を通して、将来弁護士としてNPOを支援するのであれば、常勤職員として活動したら、面白いのではないかと考えるようになりました。団体の実情を理解することは将来アドバイスする上で役立ちますし、NPO出身の弁護士というのはキャリアとしても面白いのではないかと、などと考えるようになりました。合格発表の後、その気持ちはさらに強くなりました。

その時Teach For Japanでも偶然バックオフィス全般担当の常勤職員の募集をしていました。キャリアのみならず、今急成長しているTeach For Japanのバックオフィスで事業を支える仕組みを作っていく経験は、他では出来ないのではないかと思えました。

しかし、競争が激化する弁護士業界の中で、年間遅れをとることは将来的に不利になりうるのも事実で

す。弁護士の先生や友人にも相談したりして、本当に悩みました。

このような中、最終的な決め手はやはり「ここでやらずに後悔しないか」という自分への問いかけでした。弁護士になれば年間NPOで常勤職員として働くのは非常に難しくなります。一度はNPO等に身を置きたいと思いつけてきた以上、このタイミングを逃したら後悔するのは目に見えていました。

そう考え、内定をいただいている事務所の先生にそのような自分の思いをお伝えしたところ、1年間限定で職員となることも認めていただきました。

6、最後に

今は、Teach For Japanの職員として、ミッション実現に全力を尽くしています。また、自分と同じように、ビジネス法務に携わりNPO等の支援を積極的に行っている弁護士のグループ(BLP-Network)を作っ

たり自分から積極的に他の弁護士の先生方との協力をしたりもしています。

今後は、自分の知識を深め、スキルを磨くと同時に、志を持って頑張る人々が安心して事業を拡大・展開できるようにすることで、一人でも多くの人々の喜びや安心に貢献していきたいと思っております。まだまだ経験も浅い自分ですが、この志を忘れず、二歩ずつ前進していければと思っております。

末筆ながら、拙い文章をお読みくださり、本当にありがとうございます。少しでもお読みくださっている皆様のお役にたてば幸いです。



タイを代表するソーシャルベンチャー、Change Fusion代表のスニット氏と

同期の

輪

同期の輪
高校62回生
成人の集い

山口 暖志朗

昨年(2010年)の5月19日、我々高校62回生の成人の集いが行われました。2010年3月に本郷学園を卒業して以来2年ぶりです。現役で大学に進学していれば3年生になった当時の同級生たちの久しぶりの再開でしたが、2年という年月は長かったのか短かったのか、皆大きく変化成長したように見えながらも印象は昔のままでした。顔を突き合わせればすぐ高校時代のように話出せる。そんな雰囲気です。終始成人の集いは進んでいきました。

今回の集いは、聞いた話によればここ数年で集まった人数がもっとも多かったらしく、この時100人以上は参加していたと自分も記憶しています。こうして当時の仲間が寄り集まって食べる食事は美味であり、「酒」を酌み交わすことが出来るのが、「成人の集い」の大きな意義ではないかと思えます。

古来より杯を交わすということとは、人類普遍のコミュニケーションとして非常に重要な役割を果たしてきました。かつて巣鴨のマクドナルドで生活指導の先生が来ないかビクビクしながらたむろしていた我々も、こうして酒を飲める仲間になったのだなあ、しみじみ思います。

さて成人になるということは、まもなく社会に自立して出るときの最終フェーズに、多くの同輩が差し掛かっているというところであります。自立とは依存の正反対であり、ある程度の孤独というものが必然的につ



同期の会

中学18回生 本中18会総会の様子

(1945年11月昭和20年11月卒業)

志田 芳久

「友よ お会いしよう」——この優しい前田和男君の言葉に誘われて、秋の深まった十一月十日旧友が一堂に会しました。出席予定者は二十一名でしたが、当日になって急遽四名の欠席者が出て、十七名で会が始まりました。その欠席者の中には会長の大塩宏二郎君や前田和男君も含まれています。それぞれが急病のためという事でした。

こうした事情から山口二君の司会

で始められた総会も、会長挨拶がなく、異例な会の進行です。そして今年度逝去された、七人の方々の冥福を祈つて黙祷を捧げました。次に学園の同窓会理事を務めている、岡田光正君から会計報告と監査と最近の学園の様子が報告され、ここで近況報告に移ります。三人の方に最近考えている事を十五分程度の範囲で話していただきました。

最初が馬場隆君で、今我が国として大きな問題になっている「尖閣諸島」についてです。その話の中で中国が領土を主張する根拠として一九四三年の蒋介石・ルーズベルト・チャーチルによって行われたカイロ宣言が大きく関わっている事を教えてくださいました。

続いて鈴木卓三君が環境問題に関して次の三点から語ってくれました。①ハリケーン・サンディ②アルゴアの不都合な真実③京都議定書等についてです。その中でノーベル賞まで



もらった「アルゴアの不都合な真実」には間違いの多い事を話してくれました。

最後に仲摩邦夫君から歴史研究家として、地域の人々との交流の楽しさを、ユーモアを交えて語ってくれました。そしてその中で健康法として、人と話をする事、成るべく沢山

歩く事を強調してくれました。

続いて記念撮影から、高橋正明君の司会で懇談に入り、久しぶりに出席してくれた宇田川智造君の音頭で乾杯し、しばし楽しく語り合いました。一時間程の歓談で総会も終末を迎え、恒例の大原功君の閉会の言葉と締めで恙無く幕を閉じました。会長不在という一抹の寂しさはありましたが、出席者全員お互いの健康を確かめ合い、来年の総会への出席を心に秘めて帰路に就きました。

同期の会

高校6回生 (1954年〓昭和29年〓卒業)

染井ふくの会

篠喜三郎

われら高6回生は、昭和29年255名の卒業生が学園をあとにし、それぞれの道に青春を駆け抜け、はや70代の後半に入り込み、居所の判る者も50名程となつて、本日(平成24年5月18日)の同期会を迎えることになり、16名での開催と



なつた。

思えば昨年行うべきところ、あの「3・11」という千年に一度の大災害と原発事故があつて、また、翌年にはわれらの大半が喜寿を迎える事もあつて、今年に延ばしていた次第である。

場所は同期の中島洋吉氏が経営する浅草の老舗「むぎとろ」で行なつ

た。当日は三社祭の初日と東京スカイツリーの開業がまじかにせまつて、祭囃子が流れ、初夏を思わせる通り雨もあつて、若者に戻つたような嬉しい気分で、3年ぶりの再会となつた。今回は同窓会の南谷会長をお招きし、カメラマンを新澤後輩にお願いした。同期の吉田和雄カメラマンが亡くなつたためである。

「むぎとろ」での開催も久しぶりで、仲居さんも、料理も、司会の渡辺昭義氏の好リードで宴席も申し分なく、参加者一人一人の近況に明日以降の成りゆきが予測でき、同期の前向きな生き方に同感し、元氣付けられた。久しぶりに参加された寺田栄一氏の活動にエールを送りたい。

楽しい時間ほどあつけなくすぎるもので、漆間秀唯氏による音頭で〓本中ツンツン節〓を出席者数16名にあわせて16番まで斉唱し、さらに一本締めで散会した。

今回の「むぎとろ」での開宴にお

ける中島会長のご厚意に改めて御礼申し上げます。とともに浅草「むぎとろ」が、東京スカイツリーの賑わいとあいまって、更に益々繁盛されま
すよう願う次第です。

同期の会

高校8回生（1956年〓昭和31年〓卒業）
渡辺衛さん75歳で逝く

新澤 米次

同我々学友の巨星画家だった。平成24年（2012年）秋、日美展に作品を2点発表した。作品A（写真）は秀作に。他の作品も入選しダブル受賞した。このニュースを聴きつけて、六本木の国立新美術館に同窓生



仲間8人と観にいった。水元公園の雑木林の木漏れ日を描いた秀作は会場の話題を独占した。

彼はいつもスケッチブックを持ち歩き、描き続けていた。来年のテーマも決め構想を練りあげていた。未発表のまま衛ちゃんは筆を置いた。残念。安らかにお休みください



左から2人目が渡辺衛さん。旧友たちと。平成25年2月21日

同期の会

高校12回生（1960年〓昭和35年〓卒業）
同期会
熊木 宏治

い。合掌。

われら高校12回生の同期会が、平成24年6月23日に開催されました。会場は東京都心から程近い江戸川区にある下町の高級レストラン「ニューオークラ」です。午後6時開始ということで、間に合うよう早めにJ.R小岩駅に行き、北口駅前のにぎやかな商店街を通り抜け会場へ向かいました。梅雨の中休みで、まだ陽が高く暑い盛りでありましたが、途中、時折涼しい風が心地よく5分ほどで着きました。

出席者は18名、定刻、いつものように大梶勝英君の進行により始まりました。そして、代表幹事の田嶋輝男君から軽妙なしゃれを交えたご挨拶が続きました。昨年は、東日本大震災に伴う被害に見舞われたこともあり、被災地の皆様のお気持ち

を汲んで同期会を自粛し休会としたこと、したがって皆さんとは2年ぶりの再会である旨、また、前回の同期会に出席された九十九里町にお住まいの矢部恭二君が3・11の地震の際、二階の階段から転落し打ち所が悪く亡くなった旨の大変残念な報告がありました。矢部君におかれましてはここに謹んで哀悼の意を表すとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

また、幹事から、今回、新たに参加された向井史朗君と山本博君のご紹介がありました。向井君は、銀友第41号に掲載されているので、ご記憶されていることと思いますが、会社定年退職後、趣味の絵画に生きがいを見出し、充実した余暇を過ごされている旨、また、山本君は、安孫子でゴルフ用具店を営み現役でご活躍している旨のそれぞれの自己紹介がありました。

今回の同期会は、われわれ古希を

迎えた年に当たるので、会費を少々奮発し、お若い綺麗どころのコンパニオンに参加していただき花を添えることになりました。コンパニオンのお酌により乾杯することとなり、「人生は七十歳から」の心意気で今後も元気で年一回の同期会で会おうと、唱和いたしました。

宴会の懇談中において、同窓会副会長の市倉洋一君から、最近の学園は、文武両道の教育方針のもと、われわれの時代に比べはるかにレベルアップしている旨、また、同窓会誌「銀友」は1万3千人に送付し、卒業生の旧交を深め一層の絆を深めている旨のご報告がありました。また、今回の出席者各人からは、それぞれの近況をお話いただきました。皆様、元気で過ごさしのこと何よりのことと存じます。

宴もたけなわになり、鈴木教司君の飛び入りで腕自慢のウクレレを奏でながら、懐かしのソングを披露して

いただくなど楽しい懇談もあつという間に過ぎ、午後8時過ぎに来年も元気で会うことを約束して中締めとなりました。

余韻さめやまぬ名残り惜しい有志は、その後、ホロ酔いを醒ましながら徒歩で京成小岩駅北口の居酒屋「はすかつぶ」に繰り出しました。こ



こは、田嶋君のホームグラウンド。焼き鳥をつつきながらあらためて飲み直しました。幸い他にお客さんがいなかったこともあり、存分にカラオケで自慢の歌を披露しました。二次会も盛り上がりいつしかわれらが青春時代に流行したオールディーズのメドレーになり学園時代が蘇った楽しい一夜となりました。

最後になりますが、今回の同窓会開催にあたり代表幹事の田嶋輝男君をはじめ、物心両面でご支援をいただいた阿久津二三男、大梶の両君、そして、こまごまとお世話をいただいた飯田典幸、井口勝弘、江原稔、小早川正幸、渋谷成太、田部井勇、戸塚雄三、中村宜由、錦（楠井）孝治、渡辺清吾君に対し厚く御礼申し上げます。

同期の聲

高校13回生

(1961年昭和36年卒業)

同期会

齋藤毅

この世に生を受けて70年、高校卒

業して52年。ここに古希という形で11月11日に同期会を催すことができました。いにしえの中国に「杜甫」という詩人がおりましたが、この杜甫がのこした曲江という詩のなかの一節に「人生七十古来稀」なりとあります。杜甫が生きていた時代はそうであつたかもしれませんが、現代では基本的には平均寿命が80歳前後ですので、まだこれからという年齢です。数々の修羅場をくぐり抜けてきた者同士ですが、同期会の話の自身は良いことも悪かつたことも混在した青春時代の話しが主体になっておりました。

今年校舎が一つ新しく建て替えられ、来年も新校舎ができる話題になり、さらに今ではおそらく本郷に受験したらほとんどが不合格になるのではないか、それだけレベルが高くなったことに対し、改めて母校に対する思いが増してきたという話もありました。

話は尽きないうちに時間となり、来年は母校本郷で見学をかねて開催したいという希望があり、その方向で学校と調整をしながら進めていくことを確認して散会しました。



TOPICS

トピックス

▼「本郷医師の会」
設立のお知らせ

杉下 和行 高校48回生
1996年(平成8年)卒業

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓の先輩医師である岡本明久先生(高校40回生)(1988年(昭和63年)卒業)に昨年出合い、本郷学園の医師の会を作ろうという話になり、この度、同窓の皆様にお知らせする運びとなりました。

私自身の本郷学園時代の思い出は尽きませんが、教育目標の第一にある「強健」について少しふれたいと思います。この「強健」とは、体力なくして精神力も学力も身につかないという初代校長の松平先生の教えでしょうか。中学高校時代、雨の日は当然として雪でグラウンドが埋まっていた日も屋外で体育をやっていたことを思い出します。

大学に入って、雨天時には体育の授業が休みになると知って新鮮な驚きを覚えました。周りの友人は皆、雨天時に屋外で体育の授業があつたことはないと言っておりました。現在も雨天決行の本郷学園の伝統が続いているのかは存じませんが、私は本郷学園で体力を鍛えていただいたことにとても感謝しております。

若輩者ではありますが、先輩、後輩を問わず、広く本郷学園出身の医師の先生方と親しく交流をさせて

いただきたいと念願しております。まずは第一回の親睦会を企画いたしますので、同窓の医師の方には、是非ともご連絡いただければ幸甚に存じます。

氏名、本郷学園の卒業年、出身大学、専門科目、現在の所属、電話番号、E-mailアドレス、メッセージなどを記載のうえ、FAXまたは「Line」にてご連絡ください。折り返しこちらからご返事を差しあげます。ご本人がこの「お知らせ」に気がないこともあります。本郷出身の医師とお知り合いでしたら、ご一報いただけると助かります。

本郷医師の会会長：

岡本明久(名古屋大学医学部卒)

幹事長：

杉下和行(東京大学医学部卒)

本郷医師の会連絡先

FAX: 03-5902-7789

王子こころのクリニック内 杉下宛

E-mail: kasunicho86@yahoo.co.jp

杉下宛

▼本郷にも

応援歌があつた!

本郷学園応援委員会の取り組み

例年6月に行われている体育祭。その競技の中に「応援合戦」がある。昨年で7回目を数えるこの応援合戦は、赤組・白組・青組の応援団がそれぞれの応援演技を披露し、各組の選手と本郷学園そのものに対してエールを送るというものだ。午後の競技の最初に行われ、選手たちの気持ちは更に引き締まり、体育祭全体に一層熱が入る。

この応援合戦を主催し、それ以外にも本郷祭、オープンキャンパス、そして受験が迫った高3生対象の壮行会と、本郷に日夜エールを送り続けている生徒たちがいることを皆さんはご存じだろうか。その名は「本郷学園応援委員会」である。現在高校生7名、中学生9名の「指導部員」と呼ばれる生徒たちを中心に、

最も多い時期には百名以上の選ばれるこの応援委員会。昨年度は、前述した活動内容に加え、新しい試みとして硬式野球部の夏の大会応援、オープンキャンパス時にご来場いただいた方々へ向けての演技披露、そして本校創立九〇周年記念式典では校歌斉唱の指揮(「リーダー」と呼ぶ)も務めるなど、積極的な活躍が目立った。

このように活発に活動している応援委員会だが、その中でも特に目を引く取り組みをご紹介したい。

応援といえは、やはり学生歌の存在が欠かせない。現在、本郷の学生歌として生徒手帳に掲載されているものは校歌と行進曲しかない。しかも行進曲については、教員ですら知っている者がほとんどいないのが現状だ。これではあまりにも寂しいと考えた彼らは、他にも本郷公式の学生歌はないのだろうかと同様

文献を調べた結果、実は応援歌が存在したということをつきとめたのだ。監修には松平頼明先生の名前が確認できる。どうやら昭和の中頃、今からおよそ半世紀も前に作成された歌のようである。(『本郷学園60年史』P.351より。次のページを参照)

主将の増本洋行君はこう話す。「良い学校には良い応援歌があるものです。僕には夢があります。それは、いつか本郷の生徒全員で肩を組んで、この応援歌を熱唱することです。みんなが本郷を感じ、みんなが本郷を誇りに思いながら、みんなが一体となれる瞬間を作り上げること。本郷はそれができる素敵な学校だと僕は思っています。」

本郷の校訓である「強健」「厳正」「勤勉」を実直に体現しながら、良き伝統に基づいて日々活動している応援委員会。今年度も6月の体育祭、7月の硬式野球部応援、9月



野球部を応援する委員会のメンバー

の本郷祭で応援活動をする事が決まっている。母校を愛し、母校を応援する後輩たちを見に、皆さんも

是非足を運んでみてはいかがだろうか。

本郷高等学校
応援歌

監修 松平 頼明
作曲 野口 泰彦
作詞 北岡 太

一、秋ぞ来たれる 決戦の
日頃の技を いまここに
競いでやまぬ 健児らは
青春琢磨あり
とどろけ雄叫びよ

本郷 本郷
われらこそ 覇者

二、闘魂燃えて 血はたぎり
一糸乱れぬ 戦陣は
行手をはばむ 雲もなく
若人 肩あけて
仰がん空の鷲

本郷 本郷
われらこそ 覇者

三、高らかに上がる かちどきは
勝利に酔える 感激ぞ
母校の旗の色ぞ濃き
栄光われにあり
はばたけわが希望

本郷 本郷
われらこそ 覇者

本郷高等学校 応援歌

作詞 野口泰彦
作曲 北岡 太

O B 会

通 信

ス キ ー 部

創立40周年記念パーティー

加藤 哲史 高校57回生
2005年(平成17年)卒業

2012年11月3日、巣鴨にある三菱養和会のレストラン「パルテール」にて、本郷スキー部創立40周年記念パーティーが開催されました。OBは勿論のこと、顧問の佐々木先生や現役生、毎年合宿でお世話になっている旅館「サンロードインうばしま」の御夫婦、元顧問

の沢辺先生・三好先生にもご出席頂き、総勢約100名での開催となりました。

今回のパーティーでは、40周年を祝うだけではなく各OB間やOB・現役間の交流を深める目的もあり、交流イベントとしてテーブル対抗のクイズ大会を行いました。各テーブルのメンバーは、OBの期や現役生をランダムに選んでおり、40年の世代を超えた交流が行われ、関係者間の絆が今まで以上に深められたと思います。



写真の解説がありました。

また、パーティーの最中に行われた活動報告では、顧問の佐々木先生による現役生の練習風景のビデオ紹介があり、OBサイドからは10期の白倉さんによる昔の合宿のみせました。

なお、巣鴨駅近くの居酒屋で行われた二次会には40名近くのOBが参加し、二次会に続く本郷スキー部らしい勢いのある盛り上がりを見せました。

本郷スキー部OB会では、5年おきに記念イベントを行っていますが、今回の40周年記念パーティーは今までと違う特色として、開催事務局メンバーに若手OBが数名参加しました。

私自身、社会人4年目のOBではありますが、普段減多にお会いしないOBの先輩方と連絡を取り合いながら一緒に準備をしたことは大変良い経験になったと感じております。

会終了後に、沢辺先生や古参OBの方に握手を求められました。本郷スキー部を背負ってきた方々の力強い大きな手に改めて驚かされました。

今後、45周年記念や50周年記念とイベントが予定されておりますが、歴史を築いてきた古参OBの確かな

指導力と若手OBの若い力をハイブリットし、本郷スキー部及び本郷スキー部OB会を盛り上げて行きたいと思えます。



自・2013年4月1日 至・2014年3月31日

会員相互の意見と親睦

- 定期総会 日時…6月15日(土) 15時。会場…母校会議室
- 総会後の会員懇親会 日時…6月15日(土) 17時。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費…2,000円
- 成人の集い 卒業2年後に成人となるお祝の同期会。第6回(高校63回生(2011年)平成23年)3月卒業) 日時…5月18日(土) 14時半。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費…1,000円
- 理事懇親会 日時…4月20日(土) 17時。10月19日(土) 17時。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費…2,000円
- 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室(ブース)開設 開設日…9月21日(土)、22日(日)
- 本郷祭同窓会懇親会(サロン) 日時…9月22日(日) 15時～17時。会場…三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費…2,000円
- 還暦の集いなど同期会開催の支援

会誌の発行

- 「銀友」42号 発行日…5月1日。発行部数…15,000部。A5版。

母校の後援

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰
- 卒業生全員に記念品贈呈
- 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈

会員名簿の管理

- 住所変更などの各種管理

ホームページの管理

- 内容の充実

その他の事業

- 学園との懇親会開催
- 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会議の開催

- 理事会 日時…4月20日(土) 15時、10月19日(土) 15時。会場…母校会議室
- 運営委員会 日時…4月20日(土)

- 13時、5月18日(土) 12時、6月15日(土) 13時、7月20日(土) 14時、9月21日(土) 14時、10月19日(土) 13時、11月16日(土) 14時、12月21日(土) 14時、1月18日(土) 14時、2月15日(土) 14時、3月15日(土) 14時。会場…母校教室
- 第7回「成人の集い」(高校64回生(2012年)平成24年)3月卒業)実行委員会 日時…2月15日(土) 13時。会場…母校教室
- 第9回「成人の集い」(高校66回生(2014年)平成26年)3月卒業)実行委員会 日時…3月15日(土) 13時。会場…母校教室

同窓会からのお願い

年会費納入にご協力ください 一口：2,000円以上
 同窓会の運営はすべて皆様の会費で行っております。
 振込取扱票を同封しております。

2013年度収支予算案
 2013年4月1日～2014年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	2,738,343	総 会 費	0
新卒者同窓会入会金	3,000,000	会誌発行費 (15,000部)	2,800,000
同窓会年会費	2,400,000	銀友製作費	
成人の集い	560,000	宛名印刷費	
会 費	130,000	ラッピング費	
学園側負担金	430,000	発送費	
本郷祭同窓会懇親会費	100,000	編集諸経費	
雑収入	100	行事部門	2,140,000
		成人の集い (第6回)	500,000
		成人の集い (第7回)	100,000
		本郷祭同窓会懇親会費	250,000
		本郷祭同窓会出展費	100,000
		同期会開催支援費 (活性化)	150,000
		活躍した生徒への激励費	500,000
		卒業生記念品費	150,000
		同窓会賞費	40,000
		学園懇親会費	300,000
		父母の会交歓会費	50,000
		会員名簿保守管理費	250,000
		ホームページ年間契約料	70,000
		運営委員会交通費補助	170,000
		事務費	200,000
		備品費	
		消耗品費	
		資料作成費	
		雑 費	
		予備費	200,000
		支出合計	5,830,000
		次年度繰越金	2,968,443
合 計	8,798,443	合 計	8,798,443

自・2012年4月1日 至・2013年3月31日

会員親睦会等の開催

- 定期総会 日時…6月16日(土) 15時。会場…母校会議室
- 定期総会後の懇親会開催 日時…6月16日(土) 17時。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。会費3,000円
- 第5回「成人の集い」(高校62回生(2010年)平成22年)3月卒業) 日時…5月19日(土) 14時半。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。参加者数…134人(62回生110人、理事長・校長・担任教諭など学園関係者14人、同窓会関係者10人)。会費1,000円
- 理事会後の理事懇親会開催 日時…4月21日(土) 17時。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。会費3,000円。
- 理事新年会開催 日時…1月19日(土) 17時。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。会費2,000円。
- 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室(ブース)開設 開設日…9月15日(土)、16日(日)。会場…4号館2階選択D教室

- 本郷祭同窓会懇親会(サロン)開催 日時…9月16日(日) 15時～17時。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。参加者数…53人。会費2,000円

会誌の発行

- 「銀友」41号 発行日…5月1日。発行部数…15,000部。A5版。

母校の後援

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒78人(10件)を表彰
- 卒業生全員298人に記念品として印鑑を共同で贈呈
- 学業優秀な卒業生8人に「同窓会賞」を贈り表彰

会員名簿の管理

- 住所変更など各種管理 業者に委託

ホームページの管理

- 逐次内容の充実

その他の事業

- 学園との懇親会開催 同窓会より14人参加。日時…12月12日(水) 18時より。会場…「巣鴨スポーツセンター」内。学園側からは理事長、常務理事、校長、副校長、高・中教頭、母校OB教諭(同窓会担当)、事務職員が参加。
- 入学卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会議の開催

- 理事会 日時…4月21日(土) 15時。会場…母校会議室
- 運営委員会 日時…4月21日(土) 13時、6月16日(土) 12時半、7月21日(土) 14時、9月1日(土) 14時、10月20日(土) 14時、11月17日(土) 14時、12月15日(土) 14時、1月19日(土) 13時、2月16日(土) 14時、3月16日(土) 14時。会場…母校教室および会議室。
- 第6回「成人の集い」(高校63回生(2011年)平成23年)3月卒業) 実行委員会 日時…2月16日

(土) 13時。会場…母校教室
第8回「成人の集い」(高校65年生) 2013年 平成25年 3月 卒業(実行委員 会結成) 日時… 3月15日(金) 13時。会場…母校 教室

2012年度収支決算報告書

2012年4月1日～2013年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	2,625,830	総 会 費	0
新卒者同窓会入会金	2,980,000	会誌発行費 (15,000部)	2,764,144
同窓会年会費	2,354,000	銀友製作費	1,485,330
成人の集い	134,000	宛名印刷費	124,315
〔会 費	134,000	ラッピング費	250,267
〔学園側負担金	0	発送費	793,682
本郷祭同窓会懇親会費	106,000	編集諸経費	110,550
雑収入	116	行事部門	1,993,447
		〔成人の集い (第5回)	576,272
		成人の集い (第6回)	7,000
		本郷祭同窓会懇親会費	204,190
		本郷祭同窓会出展費	88,305
		同期会開催支援費 (活性化)	6,000
		活躍した生徒への激励費	780,000
		卒業生記念品費	149,000
		同窓会賞費	32,000
		学園懇親会費	150,680
		〔父母の会交歓会費	0
		会員名簿保守管理費	231,214
		ホームページ年間契約料	66,760
		運営委員会交通費補助	164,000
		事務費	128,038
		〔備品費	2,580
		消耗品費	88,258
		資料作成費	29,240
		〔雑 費	7,960
		予備費	114,000
		支出合計	5,461,603
		次年度繰越金	2,738,343
合 計	8,199,946	合 計	8,199,946

預貯金・現金明細

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱東京UFJ銀行	2,492,836	0	
郵貯銀行	84,579	0	
現 金	160,928		
合 計	2,738,343	0	2,738,343

2012年度表彰記録

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒78人(10件)を表彰

1. 「第63回関東中学校ラグビーフットボール大会」に東京都大会で優勝し出場<飯田翔悟、中野幸英、石田貴一、辻準之助、高橋浩洋、櫻井亮輔、鶴岡太郎、鈴木貴裕、北川浩史、中嶋和志、上村海人、大曲瑞希、一瀬春夫、桂彰寿、間宮健登、中野誉志貴、小柳拓也、グイヤー健斗、伊藤輝、水島康太、木下隆介、君島健介、鳥飼昌寛、小岩井陽介、斉藤陸君>(25人:6月8日表彰)



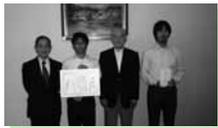
2. 「第8回文部科学大臣杯小中学校将棋団体戦東日本大会」に出場<(中学)村田祐樹、江崎大也、田崎星嗣君>



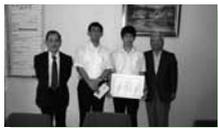
3. 「全国物理コンテスト 物理チャレンジ2012第2チャレンジ」において2人が優良賞、1人が奨励賞受賞<(高校)高荒大明、渡邊正理、桐野将君>(以上2件6人、7月20日表彰)



4. 第52回全国中学校水泳競技大会の「50m自由形」、「200m個人メドレー」に出場し、「50m自由形」では決勝に進み25秒01の記録で6位入賞<中山瑞稀君>(9月1日表彰)



5. 「2012年フェデックス/ジュニア・アチーブメント インターナショナル・トレード・チャレンジ」に出場<(高校)山田裕己、中山海誠君>



6. 「化学グランプリ2012」に出場し銅賞受賞<(高校)田中道大君>(以上2件3人:9月15日表彰)



7. 「第32回東日本中学校ラグビーフットボール大会」に出場<辻準之助、中野幸英、石田貴一、高橋浩洋、間宮健登、櫻井亮輔、鶴岡太郎、鈴木貴裕、北川浩史、中嶋和志、上村海人、大曲瑞希、飯田翔悟、桂彰寿、伊藤輝、一瀬春夫、小柳拓也、中野誉志貴、グイヤー健斗、水島康太、木下隆介、栗山寛裕、斉藤陸、鈴木健介、鳥飼昌寛君>(25人:11月2日表彰)



8. 「朝日新聞社主催第十回高校生科学技術チャレンジ」に「音による紙コップの移動 第二報」に応募し佳作に<桐野将、鈴木隆也、野村直生君>(3人:1月19日表彰)



9. 「第15回全日本中学校Webコンテスト ThinkQuest JAPAN」ファイナリスト最終選考に進み金賞受賞<坂上湧理、湯浅有弘、石井景渡、穴澤徳明、安達匠、松島大翔君>



10. 「2013年度日本物理学会第9回Jr.セッション」で発表した「音による紙コップの移動 第3報」が優秀賞<(高校)桐野将、野村直生君(中学)三上紘史、小正拓実君>、「2つ穴空気砲の合成渦輪の周期について」が奨励賞受賞<(高校)鈴木隆也、梶原理希、渡邊伊吹君(中学)鷹取夏輝、栗村圭一郎君>。(以上2件15人:3月19日表彰)



2012年度定期総会報告

山際 幸雄 高校18回生(1965年=昭和41年=卒業)

日時：2012年(平成24年)6月16日(土)午後3時
 会場：本郷学園本館2階会議室
 出席者：50名

司会の野田悠二理事(高校24回生)昭和47年卒業)が開会を告げ、あわせて役員任期三年にともなう改選年度にあたり、4月21日(土)に開催された理事会で南谷修同窓会会長(高校8回生)昭和31年卒業)が再選されたことを報告した。

次いで同窓会の物故者に黙祷をささげる。
 北原福二校長、南谷同窓会会長のあいさつに引き続き議事に入る。

会則により議長を南谷会長が務め、議長の指名により小室能広副会長(高校8回生)昭和31年卒業)、山際幸雄理事(高校18回生)昭和41年卒業)が書記を務める。

第1号議案 理事・役員人事の件

議長から、別紙総会資料1頁「本郷学園同窓会役員(案)―(銀友)41号42頁掲載)が提案され、秋元幹夫副会長(高校7回生)昭和30年卒業)が(案)―について説明し、全会一致でこれを承認した。さらに監事に篠喜三郎(高校6回生)昭和29年卒業)、木塚順夫(高校8回生)昭和31年卒業)氏が推薦され、全会一致で両氏を選出した。

第2号議案 2011年度事業報告の件

議長から、別紙総会資料2頁「2011年度事業報告」(「銀友」41号36頁掲載)が提案され、秋元副会長が各事業の概要を報告し、さらに個別の事業について、担当役員による報告があり、いずれも全会一致で承認した。

第3号議案 2011年度収支決算の件

議長から、別紙総会資料4頁の「2011年度収支決算報告書」(「銀友」41号37頁掲載)が提案され、斉藤毅副会長(高校13回生)昭和36年卒業)が、「科目」の「叙勲祝賀会会費」を「雑収入」に変更したうえで報告し、全会一致でこれを承認した。

なお、議長の指名により篠喜三郎理事が4月13日(金)に行った2011年度会計監査について「会計処理は公正かつ妥当なものである」と報告し、これを了承した。

第4号議案 2012年度事業計画(案)の件

議長から、別紙総会資料5頁の「2012年度事業計画(案)―(銀友)41号34頁掲載)が提案され、秋元副会長が説明した。

第5号議案 2012年度収支予算(案)の件

議長から、別紙総会資料6頁の「2012年度収支予算案」(「銀友」41号35頁掲載)が提案され、斉藤副会長が説明した。第4号、第5号議案とも全会一致で承認した。

第6号議案 報告事項

議長より、学園90周年事業として42号館(旧デザイン科棟)を解体して5階建て(地下に1000人規模の講堂)の新2号館が建設されることが報告された。

この後、出席者からの発言が懇談的にあり、玉川昭副会長(中学19回生)昭和20年卒業)が閉会の辞を述べ、議事を終了した。

2012年度

本郷祭報告

赤井 健郎 高校22回生
1970年(昭和45年)卒業

2012年度の本郷祭は「STEP BY STEP」をテーマに、9月15日、16日の二日間にわたって開催されました。数年ぶりの猛暑の夏も過ぎ去ろうとしている初秋の天気の良い二日間でした。

「震災3・11」という重いテーマを掲げた同窓会の展示室では、たくさんの方にDVDや新聞の切り抜き、そして写真雑誌などを熱心に見ていただき、最後にはアンケートにまで協力してもらいました。そんななか飛び入りのイベントとして在校生応援団による演舞と応援歌の披露があり、会場を盛り上げてくれました。

私は卒業以来40数年ぶりに、同窓会展示の会場役員として二日間通い、昔の本郷祭を思い出しながら生



徒たちが準備した各ブースや模擬店などを見て回りました。でも、何か昔と違う会場の雰囲気を感じ、何が違うのかをさぐる思いで校内を二巡してみました。

わかったのです。焼き鳥・焼きそば、お好み焼き…昔のまま…。近くの女子高の生徒達が少ない、硬派の学校になったのか、もてない学校になりさがつたのか…。一番変わったのは父兄(お母さん)の多いこと。可愛い息子のためののか…。

二日目になると私も落ち着き、来ていただいたOBや父兄の方々への震

災DVDなどの説明も詰まることなくでき、アンケートへの協力を呼びかけていました。

二日目のメインイベントは、恒例になっている本郷祭同窓会懇親会です。三菱養和会・巣鴨スポーツセンター(レストランバルテール)に、上は八十歳代から下は二十歳代の若者までが一堂に会し、和気藹藹と世代を超えてみな楽しく語り合いました。

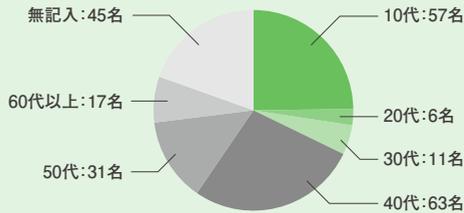
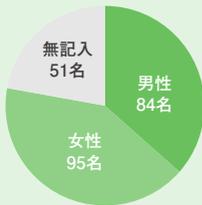
今年もまた秋には、本郷祭での同窓会展示、懇親会が計画されます。たくさんさんのOBの皆様の参加をお待ちしています。部活で活躍した人も、あまり活躍しなかった人も、全然…人も。是非。



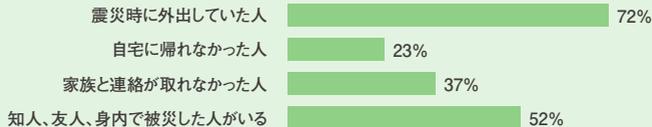
「震災 3.11」アンケート集計

平成23年(2011年)に発生した「東日本大震災」から1年6ヶ月経った、平成24年(2012年)9月15日・16日に開催された本郷祭(学園文化祭)で、震災の風化を防ぎ、記憶を絶対に忘れないようにと「震災3.11」のタイトルで同窓会展示を行いました。皆様にご協力いただいたアンケートを集計しました。

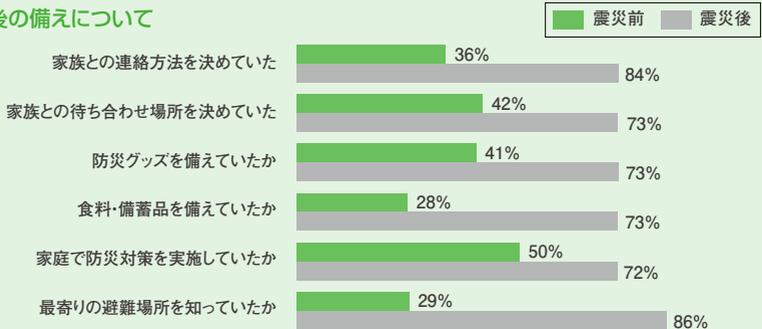
■ アンケート総数:230名



■ 当日の状況について



■ 震災前と震災後の備えについて



■ ご意見

〈30代 女性〉

母の実家は陸前高田でしたので、すっかり跡形もなく、町が消失しました。叔父、叔母が津波で亡くなりましたが、いと夫婦をはじめ、その子どもたちは無事でした。今では、新たに居を構え、再スタートをきっています。全国の皆様からの気遣いに感謝しておりました。

〈30代 女性〉

震災後、近所のスーパーの食料がなくなり、買い物に大変困りました、常日頃からの備蓄が大切だと思いました。

〈50代 男性〉

いつ起こるかかわからない大震災。万が一の為に、家族との待ち合わせ場所、連絡方法等、必ず打ち合わせておく。自分の命を守るのは、自己責任である。

〈70代 男性〉

突然身に迫る地震対策は、日々家族と連絡を取っておくべきだと痛感しました。運送業の息子と連絡が取れたのは3時間後であり、もっと違う連絡網を考えたい。

本郷学園同窓会役員(案)

(名誉会長、顧問、相談役を含む) 任期は2015年度総会まで

名誉会長

松平 頼武 (学園理事長)

会長

南谷 修 高校8回 1956(昭和31)年卒

副会長

玉川 昭 中学19回 1945(昭和20)年卒

秋元 幹夫 高校7回 1955(昭和30)年卒

小室 栄広 高校8回 1956(昭和31)年卒

井上 栄三郎 高校10回 1958(昭和33)年卒

市倉 洋一 高校12回 1960(昭和35)年卒

斉藤 毅 高校13回 1961(昭和36)年卒

監事

篠 喜三郎 高校6回 1954(昭和29)年卒

木塚 順夫 高校8回 1956(昭和31)年卒

顧問

北原 福二 (中学校長) 中学13回 1940(昭和15)年卒

中村 允 高校3回 1951(昭和26)年卒

山内 英夫 高校3回 1951(昭和26)年卒

相談役

宮本 幸雄 中学15回 1942(昭和17)年卒

植松 隆吉 高校3回 1951(昭和26)年卒

運営委員

新澤 米次 高校8回 1956(昭和31)年卒

山際 幸雄 高校18回 1966(昭和41)年卒

梶 徳郎 高校22回 1968(昭和43)年卒

赤井 健治 高校20回 1970(昭和45)年卒

野田 悠二 高校24回 1972(昭和47)年卒

立入 健司 高校26回 1974(昭和49)年卒

野口 貴洋 高校35回 1983(昭和58)年卒

理事

高野 正美 中学17回 1944(昭和19)年卒

岡田 光正 中学18回 1945(昭和20)年卒

岡田 和男 中学18回 1945(昭和20)年卒

野木 惣市 中学19回 1947(昭和22)年卒

野島 利男 中学20回 1951(昭和26)年卒

望月 敏郎 高校3回 1951(昭和26)年卒

地曳 秀雄 高校3回 1958(昭和33)年卒

岡本 信也 高校10回 1958(昭和33)年卒

久保 清治 高校12回 1960(昭和35)年卒

上本 清治 高校12回 1960(昭和35)年卒

熊木 宏治 高校12回 1960(昭和35)年卒

山本 達雄 高校12回 1960(昭和35)年卒

阿出川 信夫 高校13回 1962(昭和37)年卒

池田 雅彦 高校14回 1963(昭和38)年卒

高田 隆義 高校15回 1963(昭和38)年卒

杉山 勝正 高校18回 1966(昭和41)年卒

小倉 義雄 高校20回 1966(昭和41)年卒

関塚 正治 高校20回 1968(昭和43)年卒

野水 国一 高校21回 1969(昭和44)年卒

富岡 俊明 高校21回 1970(昭和45)年卒

加中 耕助 高校22回 1970(昭和45)年卒

中田 守善 高校22回 1971(昭和46)年卒

池野 幸雄 高校23回 1971(昭和46)年卒

田中 良一 高校24回 1972(昭和47)年卒

野中 邦雄 高校25回 1973(昭和48)年卒

平野 隆之 高校26回 1974(昭和49)年卒

立石 嘉男 高校28回 1976(昭和51)年卒

遠藤 千秋 高校33回 1981(昭和56)年卒

佐藤 千博 高校34回 1982(昭和57)年卒

移川 真和 高校42回 1990(平成2)年卒

下村 大樹 高校45回 1993(平成5)年卒

野村 竜太 高校46回 1994(平成6)年卒

庄野 直哉 高校47回 1995(平成7)年卒

荻山 温夫 高校56回 2004(平成16)年卒

池田 貴生 高校57回 2005(平成17)年卒

金尾 晋一郎 高校58回 2006(平成18)年卒

黒部 直樹 高校58回 2006(平成18)年卒

御子柴 怜志 高校58回 2006(平成18)年卒

岡本 健太郎 高校59回 2007(平成19)年卒

高宮 成将 高校59回 2007(平成19)年卒

田中 大貴 高校59回 2008(平成20)年卒

石田 武 高校60回 2008(平成20)年卒

塩野 智也 高校60回 2008(平成20)年卒

西村 友吾 高校60回 2008(平成20)年卒

佐藤 大貴 高校61回 2009(平成21)年卒

柳田 明彦 高校61回 2009(平成21)年卒

松井 洋輔 高校61回 2009(平成21)年卒

吾郷 友紀 高校62回 2010(平成22)年卒

山田 友紀 高校62回 2010(平成22)年卒

若林 司 高校62回 2010(平成22)年卒

植草 太郎 高校63回 2011(平成23)年卒

佐藤 祐介 高校63回 2011(平成23)年卒

関田 宗道 高校63回 2011(平成23)年卒

岡田 直道 高校64回 2012(平成24)年卒

手島 秀則 高校64回 2012(平成24)年卒

中村 建介 高校64回 2012(平成24)年卒

北野 史浩 高校65回 2013(平成25)年卒

熊谷 太輝 高校65回 2013(平成25)年卒

白石 慎太郎 高校65回 2013(平成25)年卒

田口 雄飛 高校65回 2013(平成25)年卒

畑本 麻斗 高校65回 2013(平成25)年卒

印は2013年度総会で承認が必要な理事

学園だより

本郷高校2013年大学入試合格実績

大学名	現役	全体
国公立大学・大学校]		
東京	6	7
京都	1	1
一橋	5	7
東京工業	8	9
北海道	1	3
東北	6	7
名古屋	0	1
大阪	2	2
筑波	4	6
千葉	5	10
埼玉	0	1
東京外国語	3	4
東京学芸	0	4
東京農工	5	6
東京医科歯科	1	2
電気通信	0	1
首都大東京	3	5
横浜国立	2	5
横浜市立	0	2
東京海洋	0	1
金沢	1	1
信州	1	3
神戸	1	1
岡山	0	1
琉球	0	1
弘前	0	1
岩手	1	1
山形	0	1
静岡	1	1
佐賀	0	1
富山	0	1
京都府立医科	0	1
島根	0	1
滋賀	1	1
名古屋工業	1	1
福井県立	0	1
防衛	1	3
防衛医科	1	1
航空保安	1	1

大学名	現役	全体
私立		
早稲田	65	89
慶應義塾	40	51
上智	40	53
東京理科	68	89
明治	72	119
青山学院	19	24
立教	27	43
中央	42	55
法政	20	33
学習院	12	18
成蹊	3	9
成城	0	2
明治学院	12	21
日本	24	46
専修	7	12
東洋	8	16
駒澤	7	10
獨協	3	4
國學院	9	14
武蔵	9	15
神奈川	2	2
玉川	0	1
大東文化	2	2
東海	5	8
亜細亜	1	2
帝京	1	5
国士館	2	3
拓殖	3	5
東京経済	1	1
和光	1	1
国際基督教	7	7
東京都市	4	6
芝浦工業	32	42
麻布	3	6
北里	4	11
杏林	2	4
近畿	1	1
工学院	6	7
順天堂	1	2

大学名	現役	全体
私立		
昭和	2	8
聖マリアンナ医科	1	2
創価	1	1
千葉工業	1	2
千葉商科	1	1
デジタルハリウッド	1	1
東京医科	1	4
東京工芸	1	1
東京歯科	0	2
東京慈恵会医科	0	2
東京電機	11	14
東京農業	1	4
東京薬科	1	3
同志社	2	3
東邦	3	3
南山	1	1
日本医科	0	3
日本獣医生命科学	1	1
日本薬科	1	1
星薬科	3	5
武蔵野	1	2
明海	0	1
明治薬科	2	3
明星	1	1
立命館	3	4
名城	1	1
金沢医科	0	1

2013年4月10日現在

2013年3月 退職教員

美術科 三好 修
技術科 小倉 義雄

◆ 第一章 名称及び位置 ◆

《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号
学校法人 本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

会長 一名、副会長 若干名、理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものとする。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。

《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

第八条 本会に名誉会長及び顧問、相談役を置くことができる。二名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。三顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者にこれを委嘱する。四相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれを委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出席し意見を述べることが出来る。
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることはできない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の仕事及び解任》

第十条 役員の仕事は三年とする。ただし再任は妨げない。

二補充により選出された役員の仕事は三年間の当該任期の残任期間とする。

三前条第二項にかかわらず、役員は次期役員の出目日までは、なお、その任務を行う。

四会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十二条 本会の行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十三条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に開催し、次の事項を審議し議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決定

- (2) 会則の改正
 - (3) 理事の承認並びに監事の選出
 - (4) 事業報告及び収支決算の承認
 - (5) その他本会の運営に関する重要事項
- 二会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条 理事会は会長の要請もしくは理事の過半数の請求により開催する。

二理事会は次の事項を審議し議決する。

- (1) 会長の選出
- (2) 第五条第2号に該当する会員の承認
- (3) 総会の議決した事項の執行
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) 運営委員会より付議された事項
- (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条 運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

二運営委員会は会長の招集によつて開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第二項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事案は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条 会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつ、これを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条 本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条 会員は総会において発言権、議決権を有する。

二総会、理事会の議決は出席者の過半数をもつて決する。可
否同数の場合は議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

《事業年度》

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条 本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条 本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもつて充当する。

- (1) 入会金
- (2) 会員の年会費
- (3) 利息収入
- (4) 寄付金品

二いったん納入した金品は一切返還しない。

第二十三条 会員は年会費を二口式千円として二口以上を毎年納付するものとする。

二卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付則 ◆

本会則は平成十五年六月二十二日より施行する。
本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第一項については平成二十三年度より実施する。

以上

本郷学園同窓会会費納入者一覧

2013年(平成25年)3月31日現在

中6回 佐原雄次郎・堀江勇治

中7回 笹岡武徳

中8回 鈴木貞夫

中9回 有賀活郎

中10回 久住進一

中11回 市川雄一・黒川興文・中野武正

中12回 劔持行雄・坂口甫・吉田正吾・太田恭二

中13回 阿部敏一郎・景山正隆・小森為郎・鈴木和男・田中定二・中村允

中14回 柴崎甲子夫・藤井稔

中15回 阿部敏秋・荻原久雄・勝敬二・竹中節男・中村美登・根本卓光・宮本幸雄・大沢欽一

中16回 木村宮造・小永井暹・白井明・高橋璋守・永田了・中野博・野尻利祐・樋代幸雄・鶴見俊一

中17回 阿出川昭治・按田仁三郎・秋田禮一・小倉高規・大村雅通・尾前広・佐藤元徳・下村多気夫・清水吉一・高野正美

中18回

土屋二郎・寺口有喜公・益田泰彦・水田裕昭・山口登

安達正治・新井保文・青戸将・青木益嘉・磯川清和・五十嵐宏

今里隆・宇田川孝一・岡田光正・大原功

加藤宣夫・笠原栄治・志賀誠一・志田芳久

清水正美・島田公雄・杉原繁夫・鈴木卓三

妹尾尚・高橋三郎・鳥飼義二・豊崎益夫

友安昭治・西野重義・野本昭・長谷川忠也

馬場隆・檜垣順次・藤田弘治・松永昭二

松廣寿夫・松田裕・松島寿夫・前田和男

武藤泰夫・森正徳・矢部博康・渡部豊一

阿出川義男・新井忠彦・浅原義久・板倉一典

太田健三・大久保武司・大野勝弘・貝塚明雄

柏原英一・下川敬朗・重永政夫・鈴木孝一

玉川昭・高三郎・高橋實・滝田智久・竹本三男

中20回

永井四郎・野木惣市・長谷川広司・保谷六郎・増田速水・室久敏三郎・横田文男

市川恒雄・大屋忠

大塚康夫・佐藤昌雄

田島利男・鶴岡俊雄

羽山健児・橋本公成

久永幸隆・皆川敬次

山下保次・伊澤芳雄

市川保・菊入喜三郎

鈴木三好・袖山周三

藤原利彦

阿知波健・板倉厚

大下晃・大矢和夫

柄澤喜市・古門敏郎

小林國雄・鈴木完

田中一好・二宮重恒

古澤秀信・横澤邦彦

田中昭二

井筒千秋・高田政雄

野々村長三

相川厚・堀井幸次郎

木村敏夫・小倉雅文

坂野重一・櫻井泰

瀬川澄男・高橋東洋一

豊嶋敬司・西島成一

羽生銓佑・浜野清隆

宮入貞雄

石川達夫・植松隆吉

奥平博一・大部淳夫

志野原三津夫・佐々木三郎

齊藤邦衛・坂田実

地曳秀雄・中島正次郎

高3回

高2回

中22回

中21回

高4回

長崎一・根本強・野口多喜男・平子淺雄・光安伸夫・望月敏郎・山口洋司・山内英夫・吉田孝光
篠二郎・八嶋政臣・佐々木直剛

高5回

井沢清・梶野伸二・片桐幸一郎・島崎雄司・谷川洋明・宮坂貢司・影山弘

高6回

稲垣泰輔・池内春俊・内田孝二・奥村茂・小椋一・柏村喜徳郎・木村秀清・久保田義喜・蔵田尚・駒井隆行・後藤順夫・小林金則・佐々木啓之・下田敬・篠喜三郎・霜越信・関貞三・仙波忠志・高木桂三・谷澤文雄・津久田愛之助・中山壽夫

高7回

秋元幹夫・青木輝男・井島佳二郎・鈴木健・高橋三郎・福原信夫・益川雄治・宮崎靖司・山内周
稲葉研治・今淵暉之・小幡昌久・小野寺博

高8回

大木昭一・大野俊広・尾島圭亮・角能良宣・金子隆一・木塚順夫・小室能広・新澤米次・高橋竹千代・勅使河原宏記・長澤秀幸・西田稜雄・古屋勝三・深澤宏之・藤巻健三・前田武彦・南谷修・宮本佳明・山本賢一・吉田光男・渡邊衛・渡邊茂明・綿貫正壽

高9回

芥川定義・江原森太郎・田辺博昭・小林常甫・佐藤左武郎・島村泰夫・田中好明・西江正晴・比企正憲

高10回

青木弘三・井上栄三郎・泉澤賢一・小川紘・亀井俊一・上岡光男・上本清治・齊藤功・大門貞雄・田中兼孝・田中秀明・津原巖・中河秀行・福住輝男・松本恭一・山崎昇・八木橋実・渡部長幸・山崎尚

高11回

阿久津二三男・市倉洋一

高12回

飯田典幸・江原稔・大梶勝英・亀井忠雄・喜多雄三・木村尤一・久保國男・久保田晴夫・熊木宏治・鈴木教司・高好俊一・竹村義教

高13回

田島輝夫・中田和男・西野保博・向井史朗・山本達雄・吉原孝哉・阿出川信夫・相川清・明石安邦・岩城正幸・上田浩一・岡本武勝・加毛隆・方波見茂・越路往輝・齋藤毅・高橋国夫・田中清弘・中村久・野間口正機・渡辺則綱

高14回

芦原健一・池田雅彦・細谷弘

高15回

新安雄・杉山雅一・杉山勝正・高田隆義・峯岸桂介

高16回

上島敏幸・小原治男・小池昭久・田村邦光

高17回

池田健・佐藤仁・辻内健志・中村憲夫

高18回

石津彰三・板倉日出男・小倉義雄・軽部文雄・小松良栄・榊原康夫・齐田与四郎・砂泊光彦・丹波信三郎・田原克人・根本輝久・宮沢正喜・村井文一・山際幸雄・吉尾正照

高19回

秋葉和秀・有馬壮一郎・石原崇光・坂寄吉昭・下川薫・中村博・沼尻卓・長谷川実・増山恵一・吉川昭二・吉倉幸信・北原照久

高20回

我妻光久・飯沼誠次・内山正敏・大野英治・梶徳治・木島勝美・工藤一郎・小林基展・齋藤盛泰・酒井孝一・塩原一男・須賀一夫・関塚正治・瀬崎正憲・田島秀松・津田隆・戸張友晴・中村映司・中野正博・蛭田要司・平塚孝・古川和夫・松原茂・宮田英一・森尻和夫・森田知男・山下定男・矢代順一・良川眞・小菅邦雄

高21回

安藤一雄・菊地正美・工藤勝・黒杉寿博・小松健介・砂田俊雄・杉山敏行・杉山利博・鈴木英世・中田守喜・野田優明・早川盛男・小野寺清二・森田謙雄・山口陽通

高22回

赤井健郎・石井隆・遠藤達哉・岡村光雄・大恵淑行・木下寛明・蔵田昌明・柴田秀利・瀬賀春雄・染谷幸雄・土井幸雄・若杉清和・池野直樹・菅野邦彦・飛田茂

高24回

掛川敏行・進藤久幸・田中良一・中村敬司・野田悠二・松島和己・春日貞男・栗山孝治

高25回

高26回

坂井成一・千野邦雄・長谷川幸雄・山口登・吉波行男

高27回

相川勇二・伊藤豊・稲田俊和・岩崎一・笹沼博之・相模明男・柴安弘・立花英一・戸部庄次・中田久人・庭野毅・花島良晴・堀義一・松平善明・溝口清人

高28回

石川義和・河野哲史・佐藤吉伸・鈴木俊一・高橋伸治・原田俊幸・井口隆・亀山孝安・黒沢邦夫・小林博貴・菅原義則・田中実・松井伸彦

高29回

伊東史郎・磯ヶ谷満夫・石塚実・飯泉彰裕・小林幹生・菅野弘一・高木敬一・田中和男

高30回

宮本茂治・川崎雅弘・石坪英貴・幸田耕二郎・佐藤修一・富永浩伸・梶溪文有・橋本尚弘・山畑裕治・吉田法夫

高32回

石原剛次・江口研二・川名健一・小池治幸・齋藤政嗣・高橋利幸・竹内博輝・永堀義秀・原哲夫・三井良文・三友宏樹・山崎伸二・米沢潤

高33回

青木和夫・磯田浩之・岩田実・宇賀神茂・遠藤千秋・小口邦夫・齋藤卓・高橋秀明・遠山悦夫・戸谷庸克・中野一美・並木成中・西洋一・福島浩

高34回

茂木功一・山崎勝也・吉田浩久・吉田秀樹・秋元康夫・幸田和巳・小林晋一郎・林俊明・平澤淳・宮崎雄一・渡辺欣也

高35回

印東信・藤本由紀夫・山崎剛・茂呂孝元・本莊恭一・井田七海・江利川吉彦・小池武次・戸張元・江原啓之・野口貴洋

高36回

美谷信久・川端下徳之・美谷島総・加藤吉郎・下鳥豊・山田晴一・若林宏幸・杉本淳・田邊賢一・大沢弘宣・酒井信之・鈴木貴生・直井正人

高37回

岸信行・久保一樹・荒井康雄・小野寺和彦・大熊勝雄・根岸延存・小澤秀昭・秋山竹史・横川高樹・城和夫・前沢智敏・矢島俊之・島田哲三・内山建造

高38回

柴山巖・伴佳宏・山田史朗・飯塚真啓

高39回
高木淳・大野秀樹・
中尾政則・梶晋介
篠原史孝・清水伸樹・
矢嶋実

高40回
金子純一郎・石川徳宗・
岡本明久・丸山義則

高41回
小掛慎太郎・長田祐司・
高瀬知博・細田昌孝・
井上貴行・林慎也・
鈴木理・関口虎男

高42回
花田憲彦・本井利生・
水野哲行・三村淳悟・
田村伸也・吉川秀一・
藤原潤一・大澤清・
鈴木治・高山慎・
藤田恵輔・石本健太郎・
塩家吹雪

高43回
坂巻健司・萩原孝明・
伊藤正規・松本祐一・
戸塚太一・上原弘行・
中田一郎・吉田永弘・
中村歩希・早川和孝・
今井仁・野口拓栄・
藤田清志・内山義治

高44回
荒井宏二・北村彰浩・
久保村豊・佐藤裕之・
浅野裕之・津田達広・
山田大介

高45回
赤田正樹・青木和久・
中野隆之・近藤正徳

高46回
高木功介・北澤卓弥・
山田洋一・村井秀行

高47回
青江覚峰・大森慎太郎

高48回
北原宏晃・香取範充・
佐藤良
山中弘毅・橋本直人・
坂橋寿和・稻生雄一郎・
杉下和行・増田健次

高49回
林誠吾・安井督・
上野光信・中溝健晴

高50回
豊川浩成・本間裕人・
新村光央・野村耕太郎

高51回
天野秀忠・梶野貴経・
佐藤英明・新井亮輔・
中村元気・中澤利幸・
橋爪雄志・堀越亮・
乙丸貴史・染谷快典・
皆川裕司・若西良介

高52回
新開太郎・張替茂雄・
塩畑太一・藤本耕平・
鈴木常太・千田昌宏・
阿部英人・坂本泰宏・
坂田恵和・長岡理大・
猪越正直・馬渡千高・
伊田健一郎

高53回
北島康介・吉村和幸・
今井秀星・吉田朋大・
中井秀昌・福森洋輔・
奥山雄太・齊藤秀雄・
小藤寛之・田中義人・
中村旭・日谷亮

高54回
石田将敏・高辻紘之・
内原嘉昭・後藤泰治・
丸山大輔・深山敬大・
佐藤達哉

高54回
高橋祐磨・池田達彦

高55回
江間裕樹・大森秀昭・
鷗木孝・小泉孝人・
土橋篤仁・堀越周・
戸澤信太郎・堀江翔一・
和田敏治・小泉信吾・
清水玄雄・正木健彦

高55回
内丸剛郎・新村佳央・
横川三成・加藤誉幸・
駒進之介・大河内伸剛・
佐藤裕明・鈴木勇人・
塚田匡

高56回
白坂健太・高井俊宏・
冨塚賢太郎・吉田淳之助・
稲垣雄介・殿川洋右・
松田将吾・川田大助・
菅原一輝・常本浩之・
小高真樹・鳥海拓也・
卯坂潤一郎・後藤隆徳・
長谷川裕之・細谷孝伸・
山本崇史・木内健義・
栗田直亮

高57回
鶴岡亮人・吉田峻洋・
安藤裕哉・宮本英明・
北森雅雄・石村賢・宮川元

高58回
池田一樹・松島和人・
木村匠吾・並木幹夫・
秋本悠樹・江刺利彦・
西原正浩・山田実・
金原晋一郎・木下和俊・
多田邦生・梅田翔太・
宮沢祐太・岩本健史・
小笠貴嗣・黒田健斗・
土屋厚人・益田晃太

高59回
宇田川翔平・小泉隼人・
野中裕太郎・廣瀬貴充

高59回
野中裕太郎・廣瀬貴充

高60回

水谷大志・山本勝章・鈴木啓介・森井康博・山下雄大・海野航・佐藤智哉・武井良祐・林輪太郎・松本康佑・南洋佑・植田高啓・宇山宗孝・小堀一・篠原利典・長田勝也・春山輝亘・村川東・吉實大輔

高61回

大築一矢・福田修也・矢吹卓大・稻生謙吾・高井航・江川裕一・星野慎太郎・吉田玲生・浅野泰寛・飯田大也・石井洋志・鳥居暁・中村聡志・川村健太・正木直哉・山幡琢也・黒田直生人・山本陸・吉田成輝

岩瀬良平・近田宗輔・佐藤明彦・植野寛人・宇津不純一・本田哲司・横井航平・小穴泰裕・河内達也・高橋良平・築山周・福田圭祐・横田久顕・岩丸和弘・廣瀧翔太・町田修・森下弘基・岡野晴行・川野雄平・岸本慧・陣場成行・杉浦貴則・中村耕大・森嶋俊行・大倉智裕・加藤彰・藤岡遼・元田圭・木下雄登・志村暢紀・田中慎也

高62回

新田貴明・前波知輝・村田貴輝・渡邊貴之・日下知紘・大崎駿一・金子修・志田龍太郎・足立健斗・芳賀沼拓・波多野覚弥・柳裕介・安藤雄太・伊藤健太・佐賀大凱・春原裕樹・南方宙大・渡辺学嗣・小島祥平・酒井翔生・篠崎一貫・山田遼・五十嵐椋・岡本達・金晟徹・衣袋健太・大澤亜希良・平田雅俊・青木俊樹・兵頭義章・秋元陽祐・川島尚哉・小林祐樹・櫻井佑樹・櫻井雄太郎・中島瑞・福嶋大樹・周達仁・田之上英樹・宮本良一

高63回

浅輪泰斗・石井章一郎・細川尊裕・櫻井寛己・大塚桂樹・木塚康太・木原健裕・土屋雄飛・齊藤峻・津内直人・岡村優紀・佐藤祐介・野上章・三好亮麻・山口裕聖・尤俊博・中村俊一郎・郡司宰・秋山裕輔・佐々木悠太・宮島開・小林和貴・鈴木基紘・田中康彬

高64回

齋藤佑貴・篠崎宏洋・花井博貴・諸塚拓哉・高橋幸佑・高橋颯平

西山朔・柚木恵介・阿部優・石田東達・黒木勇志朗・坂井俊一・人見龍之輔・宇賀直道・熊川衆・佐々木洋平・矢吹崇明・江原慶介・梅田諒太・齋藤拓哉・高田淳平・花塚龍樹・舟木孝充・堀内誠太・望月秀人・新井利弥・大島悠理・山下大輝・小林真晴・原田直道・ブルース那佐・保賀俊哉・米田憲司・蔵雄亮・浅見笙太・内藤亮・長澤光記・小沢陽・倉部豊弘・幸田陽一朗・櫻井幹生・佐藤好峰・申俊利

回期不明 ススキヤスヨシ(57)・ハギワラ コウジ(518)・カミヤ ジョウイチ(1016)・不明者 1944020カイン(28)・20110H23年(611)

銀行振り込みも可能です。その際は会員番号(払込取扱票に印刷してあるお名前)の下の8桁の数字)か、氏名と卒年のどちらかを明記してください。

※万全を期したつもりですが、万が一、お名前前の漏れや誤字、脱字などの間違いがありましたらご容赦ください。FAXで二報いただければ幸いです。FAX03-3917-0007

訃報

謹んでご冥福をお祈り致します

同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中 18 回	中 18 回	中 17 回	中 15 回	中 13 回	中 13 回	中 13 回	中 11 回	中 11 回	中 11 回	中 10 回	中 10 回	中 9 回	中 5 回
菊地 熙夫	青木 益嘉	齋藤 敏夫	吉井 和夫	田中 定二	石原 清助	秋葉 信弥	黒川 興文	木村 善男	尾川 勝助	中川 統一	土岐 興一	大塚 秀太郎	石井 千里
	高 33 回	高 25 回	高 23 回	高 23 回	高 22 回	高 18 回	高 10 回	高 8 回	中 20 回	中 19 回	中 19 回	中 18 回	中 18 回
	相原 平治	石井 隆	大谷 一義	小川 時夫	小林 秀雄	佐浦 彰夫	白井 喬一郎	渡邊 衛	倉橋 忠雄	瀬戸 芳明	石井 博夫	山本 昇	鈴木 充

編集後記

- “今の本郷”の雰囲気を多くの同窓生に知ってもらえるも「銀友」の役目と思い、若い卒業生にも原稿を寄せてもらうようにしています。行間からにじみでる本郷で生まれた生徒たちの人格の一端を読み取っていただければ幸いです。今号では今年、大学院を出て難関の司法試験に合格した鬼澤さんが快く応じてくれました。クラブ活動では卓球部に所属し、「友人たちにも恵まれ、非常に楽しい部活」と振り返っています。将来の目標をしっかりと見すえて“文武両道”に励んだ充実の本郷時代がうかがえます。
- うれしいニュースでした。「本郷医師の会」を立ち上げる、とのこと。そのお知らせのなかで幹事長の杉下さんは、本郷の教育目標の一番目にあげられている「強健」

にふれ、「本郷学園で体力を鍛えていただいたことにとっても感謝しております」とつづっています。人の健康をあずかる医師として活躍されているからこそその実感なのでしょう。杉下さんも平成になってからの、まだまだ若い卒業生です。「強健」、「厳正」、「勤勉」……は、連綿として培われてきた本郷の伝統ですね。

- 来年1月末には新しい2号館が竣工の予定です。地上5階地下2階、地下には1,000人規模の講堂がある立派な校舎で、3月の卒業式から使用されるそうです。高校13回生の皆さんは、人工芝の校庭、昨年完成した新4号館と教育環境の整った母校の見学会を兼ねた同期会を計画しています。

(Y)



本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室開設

**〔日時〕 9月21日(土) 10:00~16:00
22日(日) 10:00~14:00**

《当日は同期会・クラス会・OB会などの集合場所にご利用ください》

同窓会懇親会開催

〔日時〕 9月22日(日) 15:00~17:00

会場：三菱養和会巣鴨スポーツセンター内「レストランパルテール」

会費：2,000円